

高齢者叙勲

瑞宝双光章

伊藤栄樹さん 88歳
(平松)



昭和16年に横芝郵便局に奉職して以来、49年余の長きにわたり、職務に精励され、滝郷郵便局長で退職されるまで、旺盛な研究心と努力をもって郵政事業の発展と活性化に尽力されました。

副市長に 加瀬寿一さんが就任

平成25年旭市議会第1回定例会の閉会日となる3月21日、副市長の選任について市議会の同意が得られ、加瀬寿一さん(中谷里)が副市長に就任しました。任期は4月1日から4年間です。

加瀬副市長は、昭和52年4月から36年にわたり旭市職員として勤務。秘書広報課長、議会事務局長、教育委員会庶務課長、総務課長を歴任しています。



3/5 旭の食材で創作おにぎり



食育アドバイザーと一緒に

旭の農産物を調理することで、食への興味・関心を高める「食農授業」が、三川小で行われました。この日参加した5年生46人は、自分たちで作成したレシピを使い、市食

育アドバイザーの指導の下、創作おにぎり作りに挑戦。作り上げた児童たちは「どの班もアイデアが素晴らしかった」などと話していました。

3/2 地域に広がる社会貢献活動



発表をする中央小と二中の児童・生徒たち

市内の小中高校生の、社会的貢献を意図した活動に助成金を提供し、学びを支援する旭・学び助成金(旭3S)。その助成を受けた学校の活動報告会が東総文化会館で行われ、中央小、干潟小、一中、二中、海上中の児童・生徒たちが発表をしました。会場には同級生や先生、市民などの聞き入る姿がありました。

発表をする中央小と二中の児童・生徒たちが発表をしました。会場には同級生や先生、市民などの聞き入る姿がありました。

3/7 ポスターで防火意識の向上



(前列左から)土路生さん、越川さん
(後列左から)鳥居さん、竹内さん

広く防火を呼び掛けるように行っている、市内小中学生による防火ポスター展。各学校から選出された214点の中から最優秀賞に輝いた、越川奈々さん(三川小・4年)、土路生

さしさん(三川小・5年)、鳥居彩花さん(海上中・1年)、竹内鈴音さん(一中・2年)に賞状が贈られました。

第17回ふるさとイベント大賞

あさひ砂の彫刻美術展が全国表彰



震災からの復活！ 昨夏は2年ぶりの砂像登場。右下は実行委員会

地域の活力を生み出すイベントを表彰する「ふるさとイベント大賞」。その表彰式が3月6日に行われ、昨夏開催の「あさひ砂の彫刻美術展2012～笑顔をここから～」が、優秀賞と復興応援特別賞を受賞しました。

同大賞には全国の自治体を通じ169団体が応募。その中からのダブル受賞に、実行委員会は「素晴らしい賞を頂戴うれしい。このことが市民の笑顔につながってくれたら」と話していました。あさひ砂の彫刻美術展は、今夏も矢指ヶ浦海岸で開催予定。海外からプロ制作者を招くほか、2日間にわたるイベントも企画しているそうです。

3/9 「花のまち旭」を交流ツアーでPR



花を介して広がる交流

県下2位の花弁産出額を誇る「花のまち旭」を、都市部の消費者にPRしようと、市内生産者との交流ツアーが行われ、75人が旭市を訪れました。

参加者たちは、花々が並ぶ生産現場などを見学。品種や管理方法の質問をしたり、記念写真を撮ったりする姿がありました。



一人一人が花を手向ける(合同追悼式)

未 曽有の大災害「東日本大震災」——。あの日から2年の3月11日、いいおかユートピアセンターで県と市の合同追悼式が行われました。式には約270人が出席。遺族代表の「あなたの仕事に打ち込む姿が脳裏に焼き付いています。一人が続くが多くの人に支えられ一生懸命生きていく」と、追悼の辞がホールにこだましました。

この日は小学校や市民団体なども追悼行事を実施。萬歳小では、復興への思いや自分の夢を記したカードとコスモスの種を付けた風船を、大空に放つ姿がありました。



思いや夢を大空へ(萬歳小)

あれから2回目の春 「一生懸命生きていく」

東日本大震災一周年 千葉県・旭市合同追悼式など

旭市復興住宅(災害公営住宅)整備事業に関する説明会

被災者の住宅の確保に向けて

東 日本大震災で被災し、住宅の再建が困難な人が入居する災害公営住宅に関する説明会が2月24日、県立東部図書館と飯岡保健センターで開かれました。出席者は約50人。「希望者全員が入れるのか」「部屋の規模はどのくらい」などと質問が出ていました。

災害公営住宅は仮設住宅飯岡の南側に建設、3階建ての集合住宅1棟に33戸を計画しています。間取りは仮設住宅よりも広く、平成26年3月完成予定。



配布された資料を見入る出席者(飯岡保健センター)

災害情報伝達手段の多様化実証実験

災害情報を複数の手段で一斉発信



避難場所へ向う飯岡中の生徒たち

市 内に設置された高性能スピーカーや電光掲示板、エリアメールなどを通じて災害情報を一斉発信するための新たな伝達システムの実証実験が2月20日、飯岡海水浴場と三川小で行われました。

この日は、大津波警報が発令されたとの想定で実施。避難を呼び掛ける放送などにより、参加者たちは避難を開始していました。システムは、参加者アンケートや実験結果を踏まえ、4月から運用が開始されます。